



大竹さんの春菊



夏はトマトとトウモロコシ、今の時期はハウレン草と春菊の収穫で忙しい日々を送っています。



毎日、ご夫婦で力を合わせて収穫をしています。 「とってもとっても取りきれないよ」とのこと。



種を蒔く間を広く取ることで、雨風や病気に負けないよう、1本1本が太く元気にしっかりと育つようにしているそうです。

★冬の定番、年末限定の春菊です

11月半ばを過ぎると大竹さんの春菊の季節が始まります。春菊は寒さに弱く、千葉県では太平洋沿いの比較的暖かい地域で、しかもハウスで育てるのが一般的です。そのため、おかげさま農場の近隣で春菊を作る農家は、大竹さんを除いてはほとんどいないのが現状です。また、春菊は風にも弱いいため、大竹さんは森の近くの風が吹きにくい畑で育てます。また、路地とハウスで作りますが、露地物は、収穫が終わる前に霜でやられてしまうことがほとんどです。

「全部収穫し切った事はほとんど無いな。昨年は大雨などでハウレン草がダメになって手が空いたから、珍しく全部収穫が出来たけど」と笑いながら言います。

ここ数年、秋は長雨にたたられるのが増えてきたため、今年はサブソイラーという大きな爪のようなもので畑の地中深くまで耕し、また春菊を育てる畝も高くしました。「去年は水が凄かったけど、今年は水はけが全然違うな。全然水がたまらないよ」と効果はかなりあったそうです。野菜の中では弱い春菊を立派に育てるために、出来る限り工夫を凝らしているのです。そんな春菊ですが、今年は大雨も無く虫や病気も出でならず「順調すぎて収穫の手が回らないよ」というほど立派に元気に育っています。路地が終わるとハウスものに移りますが、この地域の寒さでは12月下旬で終了となります。鍋や白和えなど香り豊かな冬の定番の大竹さんの春菊。約1ヶ月の期間限定ですので、充分、堪能して下さいね。

おかげさま農場は「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎春菊は寒さに弱いので気温次第ですが、12月下旬に終了予定です。